

# 開園20周年式典

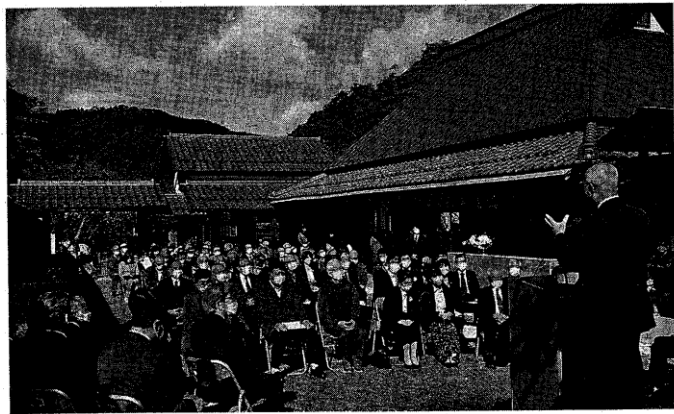
## 「里山再生のモデルに」

開園20周年を迎えた県立ささやまの森公園（川原、公園長）で6日、記念式典が開かれた。副知事ら来賓をはじめ、同園ボランティアスタッフや地元住民、行政関係者ら約100人が出席。長く運営に尽力してきたボランティアや地元に対し感謝状が贈られたほか、同園の自然体験プログラムを実践している小学生や高校生が、学びや里山の素晴らしさを発表した。また、初代運営協議会長でサルの世界的権威、故河合雅雄さんをモチーフに制作したチェーンソーアートをお披露目するなど、にぎやかに節目を祝った。

## 河合雅雄さんの木像披露

同園の維持管理や運営拠点。20年を迎えたこのソーアートは、高さ2・6メートルの巨大な木像。同園内に生えていた根元直径1・2メートルの巨木から削り出した。サルの研究者であったことから、足元にサルの木像もこしらえ、河合さんとして、ボランティアスタッフらが河合さんをモチーフに制作したチェーン

また、たくましく生きる力を育てることを目的に小学生を対象に実施している年間10回の自然体験教室「森の学校」を受講している子どもたちが、自然を大切にしたいという願いを込めたスローガンをカルタにして発表。授業「里山文化」で、同園から支援を受けている篠山東雲高校生が、写真パネルや、つる



開園20周年記念式典に臨む多くの出席者たち＝丹波篠山市川原で



記念制作物としてお披露目された河合雅雄さんをモチーフにしたチェーンソーアート。左から3人が河合さんの妻、さん

で編んだかご、藍染めのバンダナなどの成果物を掲げながらこれまでの取り組みを報告した。祝賀演奏として、吹奏楽団プリマベラと同高吹奏楽部の計14人が、と

に花を添えた。同園は、2002年7月、里山の保全と創造をコンセプトに開園。「活動スタッフ」と呼ぶボランティア（約60人）が、

班を組織し、年間80本を超える体験型プログラムを企画、実施している。開園から5年後の07年9月に入園者数10万人を達成。近年のコロナ禍でイベントが規制される中、昨年度末時点で入園者数は約36万2000人を

2022年11月13日  
丹波新聞